

昭和十九年度

暗黒から黎明へ

小坂 肇

私達、昭和十五年予科入学組は、ちょうど復活した早慶柔道戦が始められた年の四月に入学しました。

塾柔道部の戦前戦後を通じ、最も黄金時代と自負して居た時でしたので、その敗戦は（別掲戦績を参照ください）全部員悲憤の涙を飲んだものです。

それから昭和十六年十二月八日、あの真珠湾攻撃の第一報が入るまでは、一応楽しい学園生活と柔道部の生活を送ることが出来ました。戦局は日増しに陥悪化して、予科は修業三年のところ二年六ヶ月で、本科は三年のところ二年六ヶ月で卒業という制度に変り、昭和十七年は三月と九月に卒業生を出すと云う珍現象になり、塾内ではゲートル着用で登校する学生の姿も多く見られるような、軍国調に變って来ました。

しかし、塾柔道部の活動は、つとめて變った様子もなく、予科生は日吉の通称「蝮谷」の道場で、普通部、商工、学部生は綱町で練習に励んでおり、主に早慶戦に備えての練習を続けて居りました。参考迄に申し添えますと十七年以来は戦争目的遂行のためと称しほんどのスポーツの全国的な試合は無かつたと思います。

昭和十八年に入ると戦局は日本にとり益々不利な状況となると同時に、初級士官の不足から海軍では予備学生（飛行科十三期一般兵科三期）の募集があり、柔道部からは卒業間近な三年生、成宮（戦死）、滝沢（戦死）、猪原、塩山、

田辺（戦死）、二年から安東の諸氏が応募入隊しました。

また十八年九月二十二日には東条首相の「祖国の難におもむく秋が来た、学徒よベンを折れ」と号令、私達に対して徵兵猶予取消、陸海軍の部隊へ入隊を命じたのでした。

十八年十月二十一日、出陣学徒の壮行会が冷雨そぼ降る神宮競技場で催され、各学校から集まつた数万の若人で埋めつくされました。

当時を回顧しますと、ただ祖国の為にの一語につき、分列行進も万感胸に迫るものがありました。後日判明したのですが、当日残る者の代表として送別の辞を読み上げてくれたのは、当時医学部に在学中の柔道部に居た奥井律二君だったとの事で奇しき縁とでも申せましょうか驚きました。

柔道部では十一月十四日、出陣学生の壮途を祝し送別試合を催し別れを惜しんでくれました。私達は再び生きてこの三田の道場に帰つてくることが出事るか感慨無量なものを感じたものです。

昭和十八年十二月一日陸軍部隊、同十二月十日海軍部隊へと、それぞれ入隊しました。

学部三年 石渡（英）、志保沢、沢井、井上、磯辺、（以上陸軍）

山内、横田、（以上海軍）

学部二年 加藤、上原、古川、松山、（以上陸軍）

小坂、塩山（保）、中島、高橋、小川、（以上海軍）

学部一年 大館、吉田、（以上、19年陸軍）

吉川、（19年海軍）

高等部 上条

幸い学部二年の奥住君、一年の吉川君、小谷富作の諸君に後を托すことが出来ましたが、残った上級生も翌十九年と二十年にはそれぞれ戦争に参加しなければならない運命にあったのです。伝統ある塾柔道部の灯はまさに消えようとした状況にあつたと思います。

昭和二十年八月十五日第二次世界大戦も終りを告げ、身も心もよれよれになつた学生達が、三田の山上に姿を現わしたのは、早い者で九月頃から、中には外地に抑留された人はそれから二、三年たつた人も居りました。

幸い荒廃はしておりましたが、綱町の道場は残つて居り、成毛（秀）君（医専三年生）が残り少ない部員を集めて細々と練習を続けて居たとかで、それから私を中心とした戦後の柔道部が始まりました。水谷、成毛、阿部（英）、柏谷、細谷、富沢、高橋（後に野球部に転向）、高橋（卓）等懐かしい人達の顔が揃いました。

しかし昭和二十一年十二月十二日、「学校またはその附属施設における柔剣道の練習禁止」というG H Qの指令が出され、必然的に体育会から柔道部、剣道部の名称が消されることになりました。当時の事で記憶が定かでありませんが、阿部秀助、岩崎清一郎、山田久一、五島三雄、羽鳥輝久等の諸先輩を道場にお招きし、経過報告と今後の対策について協議した事を覚えております。

①体育会柔道部の部活動は一時中断せざるを得ぬ、②クラブ的な活動として同好の者が練習をする（部活動が解除される迄）、③学校の施設の使用を禁止されたので、それに替る適当な場所を選ぶ、というような事で意見が纏まつたと思います。従つて柔道部の復活した昭和二十五年十月迄、永い日蔭の生活とも言うべき同好会のような形式の部が三田綱町から飯塚師範の道場、至剛館へ移動することになった訳です。

至剛館時代の初期の参加者は小坂、水谷、成毛兄弟、富沢、島田、小佐、阿部、高木、島、水谷、柏谷、高橋、谷、依田、益子、奥井（晶）、中野（武）其他普通部商工部の人達で約三十名ぐらい、時々先輩も見えられ、二十一

年には寒稽古も実施しましたし、食料事情が極度に悪い時でしたが、大豆の焙った物や、原料は何を使つたか判らない自家製のパン、薯、何でも口に入る物ならと珍品を持参の上でわいわいがやがや言いながら楽しく届託ない練習を続けたのが印象に残つて居ります。

この原稿の内容が柔道部誌の主旨に添ぐわぬかも知れませんが、昭和18～21年の柔道部は戦争と云う出来事を記述しなければ語れないので、お許し願ひたいと思います。

学校から軍隊へ、学校から勤労動員で工場へ、黙々と國の為に精進した筆者、身を鴻毛の軽きに置き戦線に駆けた学徒兵、少しの余暇を利用して柔道の練習を続け伝統の灯を守つた若者、國民一人一人皆苦しかつたけれども意義のあつた青春ではなかつたかと思ひます。終りに学徒兵として散華した

飛田常吉、滝沢貞彦、成宮誠一、田邊龍太郎、峰岸仙三、田村福松、朝比奈三郎、秋元栄三郎、志保沢忠世、杉山利雄

諸兄の心からの冥福を祈つて筆を置きます。

成年組 小島 (甲、乙、丙) の部 内股	1 5 小 島 林 力 聲	4 4 前 刺 島 和 雄 夫 引 分	3 3 江 家 島 藤 毅 久 穀 大 姿 勢	2 2 遠 藤 高 橋 橋 輝 宏 英 夫 膝 腰 車	1 1 高 橋 橋 輝 宏 英 夫 膝 腰 車	成年組無級の部	進級月次試合	幹部 長 事範	名譽師範	役員	本國三郎孝 正晃英英之輔 三平実肇男資夫 塚渡辺田坂谷山 本野英利東英夫 三英利夫	橋 島 阿 水 石 橫 飯 中 石 磯 橫 小 阿 水 島 杉 木 本 塚 渡 辺 田 坂 谷 山 野 英 利 東 英 夫	橋 島 阿 水 石 磯 橫 饭 中 石 磯 横 小 阿 水 島 杉 木 本 塚 渡 辺 田 坂 谷 山 野 英 利 東 英 夫						

○市 高 小 ○前 ○江刺家
田 橋 林 島 和 納
周 力 雄 夫 納
一 孝 雄 夫 納

四月二十一日

春季大会

四月二十九日

先鋒 森下 ○ 柏谷 ○ 柏谷 中野 八木橋 大外刈 引分 先鋒 松永 ○ 松崎 ○ 松崎 白

○ 柏谷

中野

八木橋

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

○ 柏谷

柏谷

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

副将 ○ 高水

小柏

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

副将 ○ 松高

木木

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

副将 ○ 松高

木木

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

副将 ○ 松高

木木

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

副将 ○ 松高

木木

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

副将 ○ 松高

木木

大内返

引分

優勢

絞技

大外刈

引分

先鋒

松永

○ 松崎

白

無級の部

1 高木 三千男

引分

寺村 敬三郎

進級月次試合

五月十六日

二・三級の部

平 柳 陽 一 (3)

大内返

○水 野 耕 三
佐 準 之 助 (3)1 水 野 耕 三
2 小 佐 準 之 助 (3)
3 広 澄 田 圭 三
4 成 毛 雅 臣 敬
5 泽 田 圭 三
6 高 木 雅 臣 引 分
7 高 木 雅 臣 引 分
木 亮
引 分
足 扑
引 分
押 迸
引 分
押 迸○成 毛 英 臣
高 木 雅 臣 (2) (3)
松 村 敬 三
高 木 雅 臣 敬
高 木 雅 臣 (2) (3)
松 村 敬 三

右の結果、進級せる者左の如し。

丙組へ 高木三千男、近田稔、菅原春雄、寺村敬一郎、横山一郎、那須満述

乙組へ 有光義雄、西田賢次郎、吉田慎作

甲組へ 鳥居小路経昭、岡田正郎、市田周一

四級へ 水谷 隆、小池 晃
三級へ 鈴木正博、小田 豊
二級へ 広瀬敬一、上野貞治

飯塚師範勇退・謝恩送別大会

明治三十九年五月、慶應義塾柔道部師範（當時五段）に就任されてより、三十八年間の永きに亘り、幾多の俊英を輩出して三田柔道の一流を形成された飯塚先生には、この度高令の由をもって勇退されることになり、先輩、現部員は一日、謝恩送別の微意を表するため先生に

ゆかりの綱町道場において、送別大会を催した。
なお、飯塚先生には、今後、名譽師範として永く御薰陶をいたたくこととなつた。

三段・四段総当戦

大外刈

八 卷

上四方

水 谷

丸 五 郎

毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

限 九 五 郎

成 毛 英 男

先輩現部員戦

大外刈

八 卷

体 落

毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

先輩

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

体 落

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

先鋒

大外刈

成 毛 英 男

大外刈

成 毛 英 男

現部員

審査の部 審判高橋

進級月次試合

卓一段

足 扒 分	引 分	大外刈	足 扒 小外刈
扒 腰 分	移 腰 分	大内刈	足 扒 小外刈
足 扒 分	引 分	裹腰固	足 扒 小外刈
足 扒 分	引 分	背負投	足 扒 小外刈
足 扒 分	引 分	痛 分	足 扒 小外刈
足 扒 分	引 分	引 分	足 扒 小外刈

大將 副將

無

7	6	5	4	3	2	1	丙	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
高	寺	菅	小	米	町	影	・	水	水	水	水	水	小	小	小	松	標	標	鈴	鈴	久
橋	村	原	島	山	田	山	・	野	野	野	野	泉	泉	泉	泉	本	木	木	木	米	
數	春	寛	武	裕	公	の	部									耕			智	信	弘
宏	郎	雄	人	志	彦	一	室									三	源	茂	次	郎	和

體	落	腰	松
姿固	引	分	引
裸絞	引	分	引
引分	足	松腰	松
引分	膝	松腰	腰
引分	車	松腰	腰
優勢	落	松腰	腰
優勢	分	松腰	腰
優勢	分	松腰	腰

長高寺菅小町
沼橋村原島山田
清敬春寛武裕
人宏郎雄人志彦
(8) (9)

右の結果、進級せし者左の如し。	四・三・二級の部																
	9	8	7	6	5	4	3	2	1	15	14	13	12	11	10	9	8
丙組へ	○成	高	上	水	小	○	水	○	小	○高	○高	○高	平	○平	小	堀	
乙組へ	毛	木	野	野	寺	○	谷	○	決	橋	橋	橋	沢	沢	村	村	
小林力雄、高橋孝	雅	貞	耕	富	久	雄	隆	晃	(4)	審判					秀	泰	
町田裕彦、影山公一、米山武忠、長沼清人、堀泰治、小村井秀夫、平沢治	臣	亮	治	三	臣	亮	治	三	(2)	高橋	内股	内股	合技	大外刈	引分	引分	
足	足	背	負	投	引	分	大外刈	優勢	大外刈	引分	内股	内股	合技	大外刈	引分	引分	
優勢	松	○	成	高	上	水	○	水	○	八	水	○	中	高	小	平	堀
勢	村	毛	木	野	野	池	○	小	○	木	谷	○	神	林	島	沢	村井
勢	敬	雅	貞	耕	富	久	橋	橋	一郎	隆	(4)	○	武	嘉	力	秀	泰
勢	三	臣	亮	治	三	(3)	臣	亮	治	(4)		○	男	子	秋	馨	治
																	(8)

右の結果、進級せし者左の如し。	五・四・三・二級の部															
	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	○	鈴木誠一郎(5)	甲組へ	
二級へ	水	○	成	渡	○	渡	○	奥	佐	小	鈴	1	○	木誠一郎(5)	松本茂、標智次郎	
二級へ	谷	○	毛	部	部	村	村	藤	木	池	木	○	○	小	小野寺富久雄、小泉源	
三級へ	毛	○	雅	武	正	正	司	藤	木	木	木	○	○	佐	林島秀泰	
成毛雅臣	佐	藤	村	村	村	村	藤	木	木	池	木	○	○	中	高橋力	
成毛雅臣	佐	藤	村	毛	木	村	泉	村	藤	木	木	○	○	小	堀泰治	
奥村正司、渡部武彦	藤	村	毛	木	部	村	村	藤	木	木	木	○	○	中	高橋泰治	
奥村正司、渡部武彦	弘	敬	雅	信	武	正	正	司	藤	木	木	○	○	小	堀泰治	
	文	三	臣	和	彦	源	源	司	藤	木	木	○	○	中	高橋泰治	
	(4)			(2)												(8)

右の結果、進級せし者左の如し。	五・四・三・二級の部														
	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	○	鈴木誠一郎(5)	甲組へ
二級へ	水	○	成	渡	○	渡	○	奥	佐	小	鈴	1	○	木誠一郎(5)	松本茂、標智次郎
二級へ	谷	○	毛	部	部	村	村	藤	木	木	木	○	○	小	小野寺富久雄、小泉源
三級へ	毛	○	雅	武	正	正	司	藤	木	木	木	○	○	中	高橋泰治
成毛雅臣	佐	藤	村	毛	木	村	泉	村	藤	木	木	○	○	小	堀泰治
成毛雅臣	佐	藤	村	毛	木	部	村	村	藤	木	木	○	○	中	高橋泰治
奥村正司、渡部武彦	藤	村	毛	木	部	村	泉	村	藤	木	木	○	○	中	高橋泰治
奥村正司、渡部武彦	弘	敬	雅	信	武	正	正	司	藤	木	木	○	○	中	高橋泰治
弘	文	三	臣	和	彦	源	源	司	藤	木	木	○	○	中	高橋泰治
弘	(4)			(2)											(8)

九月九日

第五十四回 秋季大会

十一月三日

副將
○成廣
塚毛瀨

優引引
勢分分
大將副將
清岡渡
水倉辺

普通部対商工学校戦

普通部

先鋒

普通部

先鋒

鈴小奥小田久○○水武武中大岡菅菅菅菅
木田田池口米米米谷井井島出田原原原原
引小外引跳内釣揃大内返引引揃引引
分掛分腰股卷返分分腰分分
奥奥渡渡渡渡山堀宇都宮福枝宮宮松増加商
村村部部部部岡(弟)宮(兄)山島沢沢沢崎田藤
工